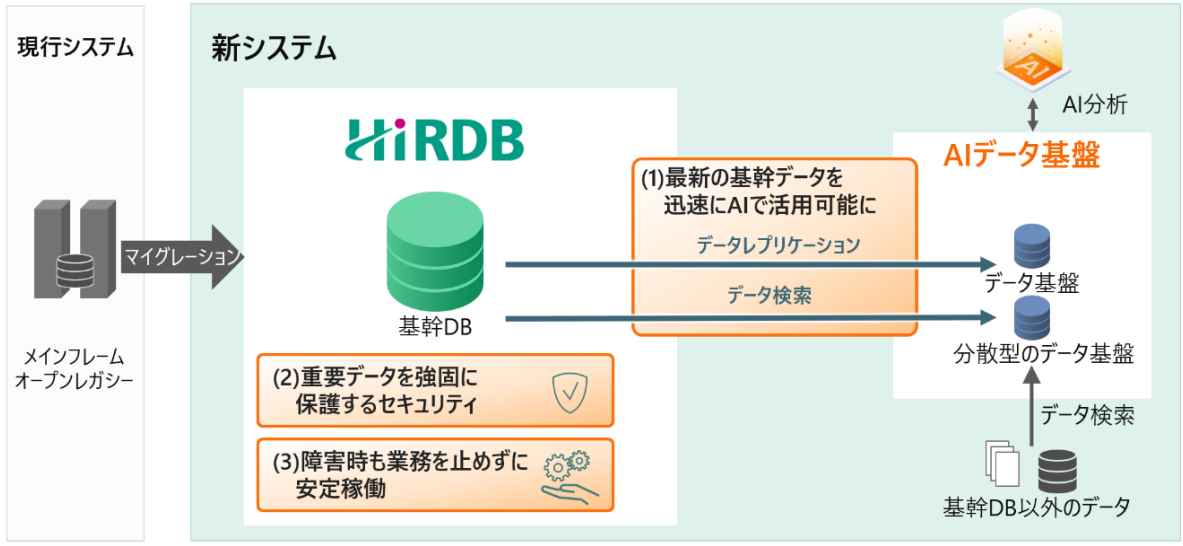
お知らせ

2026 年 11 月 18 日

社会インフラの安定稼働を守り、基幹データの迅速な AI 活用を実現するノンストップデータベース「HiRDB Version 11」を販売開始

最新の基幹データを AI データ基盤に連携し、セキュリティと業務継続性をさらに向上してモダナイズを支援



図｜HiRDB Version 11 の適用イメージ

株式会社日立製作所(以下、日立)は、金融、公共などの社会インフラシステム向けノンストップデータベース「HiRDB」の最新版「HiRDB Version 11」(以下、本最新版)を、本日から販売開始します。AI 活用が急速に進展するなか、社会インフラを支える基幹システムにおいては、安定稼働を保ちながら重要な資産である基幹データを迅速に AI で活用しやすくすること(AI Ready 化)が求められています。本最新版では、基幹システムの稼働への影響を抑えながら、最新の基幹データを迅速に AI データ基盤で活用できるようにします。具体的には、業務の稼働中に数秒オーダーでのデータ連携[*1]を、多様なデータ基盤との間で可能とします。また、重要なデータを守るセキュリティと障害時の業務継続性を従来より向上します。これらにより、基幹システムの安全性と安定稼働を確保しながら、基幹データの迅速な AI 活用を通じた業務変革を可能とするモダナイズを支援します。

日立は、長年にわたり、金融、公共をはじめとする社会インフラのミッションクリティカルなシステムを守りながら、お客さまとともに時代やニーズの変化に応じたシステムの刷新を推進してきました。近年では、業務・IT・組織の変革を一体的に推進し AI ネイティブな基幹システムへと刷新する「モダナイゼーション powered by Lumada」のソリューションを強化しており、その一環として、パブリッククラウド環境でミッションクリティカル業務の継続性を高める「クラウド高信頼化ソリューション」[*2]も提供開始しました。今回、最新版の HiRDB Version 11 は、従来の強みである高信頼なミッションクリティカル機能の強化に加え、基幹データの AI Ready 化を実現するために進化しています。

日立は今後、現場の暗黙知やデータを統合する AI データ基盤である「HMAX Data Fabric」[*3]と高信頼な基幹データ基盤である HiRDB を連携して、組織・システムに分散するデータの統合・活用を進め、企業や社会インフラにおける AI ネイティブな基幹システムの実現に貢献していきます。

*1 HiRDB から他の基盤への差分データの受け渡しまでの時間。受け取り側基盤での運用により、その後のデータ反映処理に掛かる時間は異なります
*2 お知らせ "日立、パブリッククラウド環境でミッションクリティカル業務の継続性を高める「クラウド高信頼化ソリューション」を提供開始"(2026.9.2)
*3 プレスリリース "現場全体の自律的な最適化に向け、HMAX Data Fabric など新たな基盤・運用管理ソリューションを提供開始"(2026.9.3)

HiRDB Version 11 の特長

(1) システムの安定稼働を保ちながら、最新の基幹データを AI データ基盤へ迅速に連携

これまで、基幹システムなどのデータベース間の連携やマイグレーション時のデータ移行向けに提供してきた、データレプリケーション機能[*4] を拡張し、新たに日立の超高速データベースエンジン「Hitachi Advanced Database」および「Oracle AI Database 26ai」、「Amazon Redshift」といった、AI 活用向けのデータ基盤との間で、数秒オーダーでのデータ連携[*5] を可能とします。これにより、従来、AI データ基盤へ連携するデータは、システムへの負荷を避けるために前日の夜間バッチ処理で抽出していましたが、バッチ処理を待つことなく、最新の基幹データを AI データ基盤へ連携できるようになります。

さらに、分散 SQL クエリエンジン「Trino」[*6] から HiRDB の基幹データを直接参照可能としたことで、製造現場の IoT データや各部門のファイルデータなど分散して存在する多様なデータを、横断的に参照できます。これにより、データを一か所に集約することなく、基幹データと現場データを組み合わせ、より高度な AI 分析を可能とします。

*4 HiRDB の標準機能(HiRDB Datareplicator により提供)。HiRDB のログデータを活用することでシステムへの負荷を抑えてデータ連携が可能

*5 Oracle AI Database 26ai に対し ODBC 接続でデータを反映する時間。Hitachi Advanced Database および Amazon Redshift に対しては、Apache Parquet 形式ファイルの出力でデータを反映するため、ファイル出力時間および反映側データベースの設定により反映時間は異なります

*6 複数のデータベースやデータレイクに分散する大量データを一か所に集約せず、必要な時に 1 つの SQL でデータを横断検索・分析できるエンジン

(2) 重要データを強固に保護するセキュリティを強化し、安全なデータ活用を支援

基幹データを安全に活用できるよう、セキュリティをさらに強化しました。金融分野をはじめ導入が進む耐量子計算機暗号(PQC)に対応し、将来起こり得る暗号解読の脅威からも通信データやデータベース内のデータを強固に保護します。また、新たに、利用者の所属や役割に応じて参照・更新範囲を行レベルで制御できるようにします。さらに、今後は列レベルのアクセス制御にも対応し、これらを組み合わせて利用者ごとの権限を必要最小限とし、よりきめ細かなアクセス管理を実現します。こうした外部からのサイバー攻撃への備えと内部からの情報漏洩対策を強化し、ゼロトラストにおける最小権限の原則[*7] に沿って基幹データを保護します。

*7 利用者やシステムに、業務遂行上必要最小限のデータに対するアクセス権限のみを付与するセキュリティの考え方

(3) システム障害時にも基幹業務を止めない安定稼働を実現

システム障害発生時の系切り替えにおいても、アプリケーションとの接続を維持したまま待機系システムへ処理を迅速に引き継ぐ機能を新たに提供します。具体的には、アプリケーション側に接続エラーを発生させず SQL を再実行して後続処理を継続する「透過的業務継続機能」により、データベースの系切り替えをアプリケーション側に意識させずに実行し、業務処理をそのまま継続可能です。これにより、障害発生時の業務影響を最小限に抑えて、基幹業務を止めない安定稼働を実現します。

HiRDB Version 11 の価格および提供開始時期

名称	概要	標準価格(税別)	提供開始時期
HiRDB Version 11	・AI データ基盤との最新の基幹データ連携 ・耐量子計算機暗号(PQC)でのデータ保護と行レベルアクセス制御での情報漏洩対策 ・障害時もアプリケーション側との接続を維持する安定稼働(透過的業務継続機能)　ほか	プロセッサ数ライセンス(買取りタイプ)[*8] ¥2,395,800～	2027 年 9 月(予定)

*8 プロセッサ数ライセンスの他に、同時接続数ライセンスがあります。また、買取りタイプに加えて、サブスクリプションタイプのライセンスがあります

関連ウェブサイト

・日立のモダナイゼーション
https://www.hitachi.co.jp/products/it/CloudDX/modernization/?ni=261118
・ノンストップデータベース「HiRDB」
https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/hirdb/index.html?ni=261118
・HMAX Data Fabric
https://www.hitachi.com/ja-jp/products/digital/data-fabric-operations/?ni=261118

商標注記

・Oracle、Java、MySQL 及び NetSuite は、Oracle Corporation、その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。NetSuite は、クラウド・コンピューティングの新時代を切り開いたクラウド・カンパニーです。
・Amazon Web Services、AWS、Powered by AWS ロゴ、Amazon Redshift は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。
・その他、記載の社名、製品名などは、それぞれの会社の登録商標もしくは商標です。

お問い合わせ先

株式会社日立製作所　ＡＩ＆ソフトウェアサービスビジネスユニット　マネージド＆プラットフォームサービス事業部
お問い合わせフォーム：https://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/

以上